直言
～生命（いのち）だけは平等だ～

福江 眞隆（医療法人茨城愛心会 古河病院院長）

10 年目で当初計画したフル開棟実現
「Anytime with a smile」こそ大切
徳洲会は最後の砦でなければならない

当院は7月1日に開院 10 周年を迎えます。「十年一昔」と言いますが、ここまでの道程は決して平坦ではなかったものの、今となってはアッという間に感じます。開院時は、旧三和（さんわ）記念病院からの新築移転により、関東圏の多くの徳洲会グループ病院に患者さんの搬送を手伝っていただきました。なかでも当院の兄貴分である羽生総合病院には、さまざまな面で助けられました。
同院の松本裕史（ひろし）院長は、今もいろいろと助けてくださり心の支えとなっています。古河（こが）病院は開院以来、事務長は3代目、看護部長も替わりました。松本院長は「10 年間も院長を続けているのは大したものだ」と褒めてくださいます。自分自身はそんなことは意識せずに、日々の診療、繰り返しの日常に耐え、歴史の一歩を歩んだ感があります。病院を長く続けるコツは、当院のモットーである「Anytime with a smile（エニタイム ウィズ ア スマイル）」（笑顔を絶やさず）に尽きると思います。患者さんや利用者さんのみならず、職員に対しても同様の態度が肝要（かんよう）です。
当院は、イニシャルコスト、ランニングコストを極力抑え、建物を最大限に利用したおかげで、比較的早期から黒字に転じました。 6月には院内に併設していた小規模多機能型居宅介護事業所「ポプリ」、保育所「なかよし園」、訪問介護事業所「四季」を院外に新築移転。近々、回復期リハビリテーション病棟を開設します。10 年目にして当初の計画だった病棟のフルオープンを実現しました。

毎月 500 人超の新患者さん
遂に診察券番号は 10 万台突入

当院のもうひとつの柱は健診です。なかでも巡回健診バスは徳洲会グループでも有数の実績を上げています。今後は、胸部や上部消化管のX線検査による検診から、胸部CT（コンピュータ断層撮影）、内視鏡による消化管検診にシフトしていく予定です。疾患の早期発見･早期治療､急性期・回復期・慢性期のあらゆる病状に対応していく準備は整っています。これからの 10 年も、積極的に外に出る従来のスタイルを貫きます。
最近、当院の患者さんの診察券番号が 10 万台に突入しました。健診や人間ドックの利用者さんも含めた数字ですが、今も月 500 人以上の新たな患者さんが来院してくださっており、その方たちに満足していただかねばなりません。
10 周年の記念行事として、7 月 5 日にゲストを招き、ささやかな式典を計画しています。当院を利用してくださる方だけでなく、頑張ってきたすべてのスタッフにも楽しんでもらいたいと思っています。
看護部もコメディカルも事務スタッフも充実し、離職率は関東圏のグループ病院では最も低いと自負しています。かつて徳田虎雄・前理事長の前で「当院は離職率がとても低いのです」と胸を張ったことを思い出します。

自分で大きすぎる夢を抱いて
その実現にひたすら努力する

徳洲会グループもこれからの5年、10 年が本当の正念場ですが、今も私の想像以上に各病院は血の出るような努力をし収益を守っています。ひとつ残念なのは、院長先生方を含め「立ち去り型のサボタージュ」（小松秀樹氏著『医療崩壊』より）を起こしている人たちがいることです。個人を責めても答えは出ず、大げさにいえば日本の医療全体に、

そして地方に広がった医療崩壊の芽が、私たちを追い込んでいるのではないかと思われます。「嫌だ」と言って辞めるのは簡単ですが、一番後悔するのは本人でしょう。青い鳥はどこにもいません。自分で大きすぎる夢を抱き、その実現にひたすら努力すること。そこにしか活路を見出せない気がします。

「生命だけは平等だ」の哲学を世界に広げようと、徳洲会はブルガリアに病院をつくり、アジアやアフリカに透析センターを設けてきました。災害時にはＴＭＡＴの隊員として国内外で医療支援――。私たちの仕事は病院やグループを守ることではなく、離島やへき地をはじめ不利な立場にある患者さんを守ることです。そのために払ってきた代償は決して少なくありません。榛原（はいばら）総合病院、和泉（いずみ）市立病院、生駒市立病院の指定管理者に徳洲会がなったことは、評価されるべきだと思います。

厳しさを増す医療経営環境ですが、徳洲会は最後の砦（とりで）でなければならないと思います。苦しい時にこそ「臥薪嘗胆（がしんしょうたん）」。いつか輝ける日本の宝にならなければ、私たちの存在意義はありません。そんな崇高（すうこう）な思いをもち、困難に直面しても前進し続けましょう。実現できない夢はないと信じ、皆で頑張りましょう。

徳洲新聞 2015 年（平成 27 年）
6/15 月曜日
NO.984